



今月号の主な内容

- ・ 設立30周年を迎えて
- ・ 超音波検診車の整備
- ・ シンポジウムの開催
- ・ 長田医師のあいさつ



山梨県

健康管理事業団

だより

平成25年 春号

発行：財団法人山梨県健康管理事業団
〒400-0034 甲府市宝1丁目4-16
TEL：055-225-2800 FAX：055-225-2809
ホームページ <http://www.y-kenkou.or.jp>

山梨県健康管理事業団設立30周年を迎えて

昭和14年4月に（財）結核予防会山梨県支部、昭和43年3月に（財）山梨県対がん協会、昭和41年5月に（財）山梨県寄生虫予防会（名称変更後 山梨県予防医学協会）の3つの団体が設立されました。その後、それぞれ上部団体の山梨県支部として、県内において健診検査を実施してきました。

さらに、受診者数の拡大と精度向上を図るため、昭和48年に3団体を統合して山梨保健衛生協会を設立。その後、昭和58年2月に老人保健法が施行され、保健事業の実施が市町村に義務付けられたことにより、地区医師会との連携や支援をするため、昭和58年4月、現在の山梨県健康管理事業団が県、医師会、市町村の三者で設立されました。

これまで老人保健法に基づく健康診査を市町村の住民健診として行ってきました。現在では特定健康診査として実施し、また職域・企業健診や県・地域の学校健診を行い、県民の健康維持増進に30年間貢献してきました。

今後も、四大疾病の早期発見を目的として、悪性疾患・循環器疾患等の健診精度の向上、サービス等を提供していきます。また、健診結果に基づき早期治療や疾病の予防等につながる生活習慣の改善ができる保健指導を実施していきます。これからも受診者に優しい健診を心掛けていきたいと思っております。

今年度30周年を迎え、事業団にとって節目の年であります。30年は一般企業でも事業目標を見直す時でもあり、事業団も新しい目標を持ち、職員が一丸となって努力しなければならない時に来ています。これから40年、50年と続いていくようにこれからも努力していきます。今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



しゅっぱつしんこ〜〜っ!!!

去る4月10日よく晴れた空の下、山梨県健康管理事業団を新型超音波検診車が発車いたしました。



目指したのは・・・

**巡回検診において、超音波検査における精度の向上！
受診される皆様が気持ちよく検査受けられる快適性！！**



コンパクトなボディには3台の超音波検査装置を搭載。効率的な検診で受診者にお待ちする負担を軽減。検査を行うベッドは50cmの低床設計、2.3m×0.7mのゆったりサイズで受診される方の快適性を高めました。



壁にはクリネット手摺りを、足元には暗がりでも足元がわかりやすくするようにフットランプをとりつけお年寄りの方でも乗り降り安全・楽々です。

超音波検診車には全国でも搭載の少ない、フルデジタル超音波装置を採用し、乳がん検出に威力を発揮するエラストグラフィ機能は、巡回検診における乳腺超音波検査の精度向上に大きな役割を果たし、検査精度の向上と検査における時間短縮を図りました。

今後とも、山梨県健康管理事業団は山梨県における“がん撲滅”に挑み県民の皆様の健康管理、支援に役立ちたいと考えております。

次は、



あなたの街におじゃまいたしま〜〜〜す！！

がん患者・家族を支える社会を目指して～「がんと共に」新しい人生を生きる

平成25年3月5日(火)
甲府・県立図書館 2F多目的ホール

この度、創立30周年・がんサポートセンターの開所を記念したシンポジウムを開催致しました。

県立図書館の多目的ホールは、チャペルのような綺麗な所で素敵な場面を提供する事ができ、わたしたちも嬉しいかぎりです。

がん体験者や家族、がんに関心のある方々、140名もの聴講者が来て下さり、盛況に終わり、誠にありがとうございました。

がん体験者3名をシンポジストにお迎えして、自身の体験を語り、病気の理解を呼び掛けていただきました。

悪性リンパ腫の全国患者団体「グループ・ネクサス」の天野慎介理事長は「患者の身体の痛みは医療の進歩で軽減されてきているが、心や（仕事や金銭面などの）社会の痛みにはまだまだ支援が必要だ」と訴えられ、チームになって寄り添って考えていけば、変えていく力になると思います。と、話されていました。

がん経験者としてがん患者の相談に応じるがんの「ピアサポート」に携わる小林陽子さん
リンパ腫の経験がある山梨日日新聞社の橘田俊也記者

いまを生きている熱いメッセージをいただきました。

この世に生かされている中、今を精一杯生き輝かれておられます。人となりをみせていただき、それぞれのお人柄に魅かれました。



健康管理事業団に勤めるにあたって

医師 長田忠孝



昭和57年、甲府駅の北口にあった保健衛生協会を訪れ、結核検診の間接写真を利用した肺がん検診の実現をお願いして以来ですから、私と健康管理事業団とのおつき合いは既に、31年を超えることになりました。

その間、県の健康増進課の方々はもとより、肺がん検診や総合健診を主催する市町村の保健福祉担当職員の方々、もちろん事業団職員の方々にはことさらにお世話になってきました。そのように振り返ってみますと、今年の3月、飯富病院の定年退職後に再出発の場を事業団に持つことができましたのも、これまでお世話になった皆様のおかげであり、ごく自然の成り行きだったのかとも思われます。

もちろん事業団の仕事は健診のみならず、健康や各種がん治療の相談業務から、今年4月から導入された肝がん対策のフィブロスキャンまで多岐にわたり、かつ先進的事業内容となってきました。

私も、検診の精度向上のみでなく、新しい診断機器の導入をはかり、がん死亡減少の実現の一端を担いたいと考えております。また、現在がん治療中の方々や、がんのみならず他の健康問題でお悩みの方々のカウンセリング業務にも力を入れていきたいと考えております。

健康管理事業団で今年の4月から仕事をさせていただくことになりましたので、今後に期するところをご挨拶をひとこと述べさせていただきました。

～山梨をめぐって～ 吐竜の滝

健診で県内を回る中で、写真をパシャリ。今回は、北杜市の大泉町にある吐竜の滝です。



(撮影:北村廣志)